

成人看護学

【成人看護学の考え方】

成人看護学は基礎看護学を土台に、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学と共に専門職業人としての知識・技術を高めるための専門分野Ⅱに位置する。

成人看護の対象である成人期は、全人口の7割近くを占め、青年期・壮年期・向老期と長期に及び、社会的責任・役割が大きい段階である。発達段階の特徴として、成人期にある人は、自立かつ自律した存在、意思決定できる存在であり、次世代の人々をはぐくみ、老年や小児の生活を支えるという課題を持っている。そのため、健康に障害を持ったとしても、生活者としてどのように病気と家庭生活、社会生活の折り合いをつけて自分らしく生きていくかというセルフマネジメントできる存在として当校は捉えている。

対象は、成人期の役割を果たすために、患者役割を遂行しながら多様な役割を果たしていく存在である。入院中の危機的状況や苦痛の緩和への対応はもちろん、慢性期にある人の健康教育や患者教育などセルフケア行動をとれるよう支えていく看護の意味も大きい。

看護は、対象の多様な状態に合わせ、生活スタイルや価値観を踏まえ、それぞれに合わせたQOLを追求していく必要がある。そのためには、対象者の状況を理解し、そのニーズを総合的に判断していく。成人期にある人の気持ちや思い、社会的役割や立場、生活背景を捉えた上で、対象の健康問題をアセスメントし、必要な看護を実践していくことが求められる。

以上を踏まえ、学習内容は成人看護学概論で、成人期にある人の理解と健康問題の概要を学ぶ。成人保健で成人期の健康上の課題や特徴から健康の保持増進、疾病予防を踏まえ、セルフマネジメント、危機的状況にある対象の看護を学ぶ。援助論Ⅰでは、成人期にある人の健康水準の経過から対象理解と基本的な看護を学ぶ。援助論Ⅱから援助論Ⅴでは、成人期にある人の健康問題が、環境・社会状況や生活習慣の変化により大きく変わってきていることを踏まえ、多様な健康状態・障害に対するアセスメント力(症状や疾患及び検査・治療に関する理解、健康障害が生活に及ぼす影響の理解と判断力)及び実践力を養うために、対象の特徴と基本的な看護を学ぶ。また、事例による看護過程を展開することで、看護を実践できる基礎的能力を培っていけるように考えた。

臨地実習では、様々な健康水準にある人の健康上の問題を解決するために、青年期・壮年期における発達段階別目標を視点に持ち、対象との信頼関係を築きながら、対象理解を深め、対象に応じた看護を実践する。そのために1クール90時間2単位で3クール実践し、問題解決能力、人間関係技能、学習・成長し続ける能力、チームの一員としての役割を実習の中で学び看護観を養っていきたい。